

# 令和5年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

## 1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して医学研究助成金を授与するため公募を行い、11名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、研究助成金の授与とともに「肥後医育振興会学術奨励賞」を付与した。

イナダ ヒロキ

稲田 浩気（熊本大学大学院生命科学研究部 消化器内科学講座 特任助教）

「低分子化合物で誘導したヒト肝前駆細胞を用いた先天性肝代謝疾患モデルの創出」

テラワキ タカヒサ

幸脇 貴久（熊本大学大学院生命科学研究部 免疫学講座 助教）

「ウイルス感染における好中球の多様性の解明」

ハヤシ ヒデタカ

林 英孝（熊本大学病院 画像診断・治療科 診療助手）

「心アミロイドーシスにおけるCTを用いた心筋細胞外容積定量化の臨床導入に向けた検討」

タナカ タカシ

田中 貴士（熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科 講師）

「高齢マウスの脳内遺伝子解析に基づく神経修復メカニズムの解明」

## 2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、6名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に奨学金を授与し「肥後医育振興会優秀留学生表彰」を付与した。

チョウ エイレイウン

張 衛麗雲 熊本大学大学院医学教育部  
博士課程1年（消化器外科学）（中国）

チョウ ショウ

張 子楊 熊本大学大学院医学教育部  
修士課程1年（IRCMS がん代謝学）（中国）

リ ジョゼン

李 ジョ然 熊本大学大学院医学教育部  
修士課程2年（分子薬理学）（中国）

カン ライ

韓 磊 熊本大学大学院薬学教育部  
博士前期課程2年（創薬・生命薬科学）（中国）

### 3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

#### (1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを年3回開催した。

年間テーマに「ちょっと気になるその何げない症状、放置していませんか？」を取り上げ、3回の講演会を熊本市で行うとともに、毎回、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾」特集を2頁に亘って掲載し、YouTube公開を並行して行った。

第1回は「その頭痛や腰痛、放置していませんか？」(R5.7.9、熊本市医師会館、聴講者140人)、第2回は「耳、鼻、のど、皮膚のその症状、気になりませんか？」(R5.11.4、くまもと県民交流館パレア、聴講者160人)、第3回は「サイレント・キラー（沈黙の病気）～無症状のまま進行する怖い病気～」(R6.3.2、熊本市民会館シアーズホーム夢ホール、聴講者230人)の演題で開催した。

後日、熊本日日新聞紙面で掲載しYouTube公開を並行して行った。

また、特別企画として熊杏会と共催で、北里柴三郎記念イヤー2024 記念講演会 (R6.3.31、熊本城ホールシビックホール、聴講者500人) を開催した。

#### (2) 第14回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

第14回熊本県医療人育成総合会議は、「医療機関における働き方改革と医療人育成」のテーマで、令和5年11月23日(木)に熊本大学医学部キャンパスで開催した。

令和6年4月から「医師の働き方改革」が開始され、これまでの過重労働を法的・強制的に是正させるもので、一般的には医師の時間外労働は年間960時間以下に制限される。その一方で、高齢社会の医療需要増加で医師不足状況はすでに顕著になっており、医師の業務内容を大幅に削減せざるを得ない。対応策の一つとして医療業務の一部を他の医療技術職に依頼するタスクシフトが挙げられており、当然、医療技術職の業務量は増加する。この医療現場の変容は、医療人育成、特に臨床実習や医療技術系学生の教育内容に大きな影響を与えると予想される。この危機を、臨床実習の効率化や共同化につなげる好機に逆転できないか、医療人、教育者、学生の知恵を出しあって討議を行った。

なお、開催に関しては実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り約100名の参加があった。

後日、熊本日日新聞紙面で掲載し、YouTube公開を並行して行った。

#### (3) 生活情報紙「SPICE」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行（収1）

熊本日日新聞社が発行する総合情報紙「あれんじ」が令和5年3月をもって休刊となり、4月から熊本日日新聞社が発行するタブロイド版の総合情報紙「SPICE」の第4金曜日号の見開き2頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供することとなった。内容としては、以前と同じく「元気の処方箋」（最新の医学医療記事）、「子育て応援クリニック」（小児科関連の医学医療記事）及び「慈愛の心・医心伝心」（女性医療人のリレーエッセイ）を掲載した。以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 慌てずに対応するため知っておきたい～子どもの救急医療
- 5月 大きく進んだ肺がん治療
- 6月 今、日本で最も多い大腸がん
- 7月 その人らしく暮らせるようサポートする～がん相談支援センター
- 8月 適切な治療や関わり～認知症
- 9月 乳がんで命を落とさないために知っておきたいこと
- 10月 検診を受け、見逃さないで糖尿病
- 11月 不妊症の原因にもなる子宮内膜症
- 12月 不妊治療～検査や治療の流れを知ろう
- 1月 速やかな受診・治療が大事～脳梗塞
- 2月 良質な眠りで健康に
- 3月 お尻から足にかけてしびれや痛み～腰部脊椎管狭窄症

#### 4. 医学・生物学領域の学会・シンポジウムの助成（公4）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学・生物学領域の学会やシンポジウムに対して次のとおり助成した。

- ① 第78回日本大腸肛門病学会学術集会（R5.11.10～11開催）
- ② 第38回熊本医学・生物科学国際シンポジウム（R5.12.14～15開催）
- ③ 北里柴三郎顕彰2024年事業（R6.1月～12月開催）

#### 5. 医学・生物学領域の研修会・教育セミナー等の助成（他1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学研究会並びに研修会等に対して次のとおり助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成事業（R5.4.1～R6.3.31開催）
- ② 第9回日台韓B型肝炎シンポジウム（R5.4.1～2開催）
- ③ 第23回九州高気圧環境医学会（R5.8.26開催）
- ④ 運動器科学研究会（R5.9.8～9開催）
- ⑤ 日本看護技術学会第21回学術集会（R5.10.14～15開催）
- ⑥ 第24回熊本エイズセミナー（R5.11.6～7開催）
- ⑦ 第23回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ（R6.3.26開催）

#### 6. 広報活動事業（他2）

- (1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター28号（A4判28頁）」を3,000部発行（R5.8.31）し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。
- (2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、肥後医育塾及び熊本県医療人育成総合会議のYouTube公開やスマートフォン対応など、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。